

(IV-37) 足利市における交通施設整備と商業施設立地についての一考察

足利工業大学 正会員 藤 島 博 英
足利工業大学 正会員 為 国 孝 敏

1. はじめに

モータリゼーションの発達とともに、地方都市の多くでは、旧市街地から新市街地へと賑わいの場が移動してきた。足利市においても旧国道沿いを中心に、古くから形成されてきた市街地、いわゆる商業の中心地域が、バイパスが開通した昭和51年以降、自動車交通の利便性が良い足利市の南部（渡良瀬川河南地区）へと移動する現象が表れて来ている。そこに、新しい市街地が形成され、商業施設が集積して新たな賑わいの場が創出され、土地利用が変化してきている。本研究では、交通施設整備の関連から、市街地の移動性向の中での商業施設立地について考察を行った。

2. 足利市の交通施設概要

足利市は、東京から80km圏にあり、中世以来織物の街として発展し、渡良瀬川に沿って形成された町である。また、日本最古の総合大学として足利学校等、歴史的・文化的都市としても発展し、平成8年3月現在人口は167,000人である。市街を通過する主要幹線道路は、国道50号線、293号線、407号線と、主要地方道桐生岩舟線（旧国道50号線）、足利太田線、足利館林線、足利邑楽行田線、足利千代田線、足利伊勢崎線、毛野西新井線の計10路線があり、一般県道20路線、市道4792路線である。また、鉄道は、主要地方道桐生岩舟線と平行して走るJR両毛線と東武伊勢崎線の2路線である。バスは東武バス、関東バスの2社が運行していたが乗客数の減少と共に平成7年9月に全廃となった。ただし、市町村代替バスとして足利市生活路線バス（2路線）、田沼町営バス（1路線）が運行されている。

3. 地域の変容状況分析

（1）人 口：図-1に足利市の全人口と旧市街地区、渡良瀬川河南地区の人口動態を示す。昭和45年の人口では旧市街地区は47000人で河南地区の42000人を上回っていたが、昭和50年には逆転現象が生じ、平成7年には、旧市街地区は30000人で河南地区は50000人となり、市全体の人口が減少しているにもかかわらず、20000人程度河南地区の人口が上回った。

（2）交通量：図-2に旧市街地区を通過する県道桐生岩舟線（通7丁目）と河南地区を通過する国道293号線（トリコッ団地北）の歩行者・自転車・二輪車・自動車類交通の12時間交通量を示す。旧市街地区は、歩行者・二輪車は昭和60年を、自転車は平成2年をピークに減少傾向にあるが、河南地区の歩行者は多少であるが増加傾向にある。しかし、他は旧市街地区と同様に減少傾向にある。

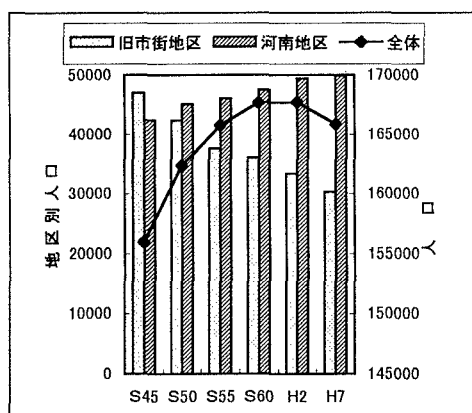


図-1 地区別人口

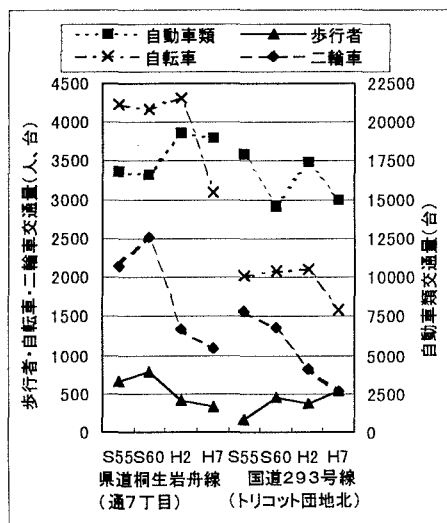


図-2 歩行者・自転車等の交通量

(3) 土地利用：図－3は旧市街地区と河南地区の住宅・商業・工業用地について、土地利用面積の変化を昭和45年と平成2年で比較したものである。住宅用地で見ると、旧市街地区は減少しているのに対して、河南の3地区は増加している。また、国道293号線が通過する山辺地区は、住宅・商業用地とも増加している。

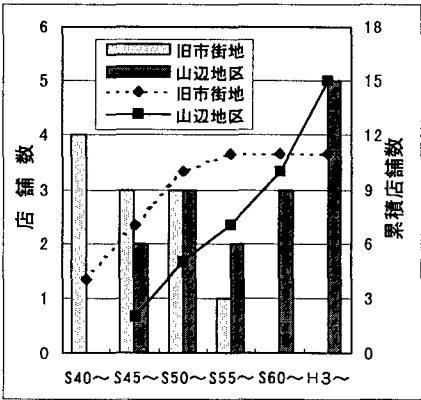
(4) 地 価：図－4に昭和50年を100とした地価公示価格の変動を示す。また、凡例のA・B・Cは、旧市街地区、Dは河南地区である。これより、河南地区（D）は昭和55年以降急激に地価が上昇し、平成7年では昭和50年の3倍以上となった。

(5) 商業施設：図－5に大規模小売店舗の出店状況を、店舗数及び累積店舗数で示す。これより、旧市街地区では昭和40～50年にかけて大規模小売店舗が多く出店したが、昭和60年以降はほとんどなく、逆に3店舗が閉店した。一方、渡良瀬川河南地区では昭和45年を皮切りに相次いで大規模小売店舗が出店し、平成8年現在、15店舗となっている。また、ファミリーレストランや家電・家具を始めとした専門店等も河南地区へ相次ぎ出店している。

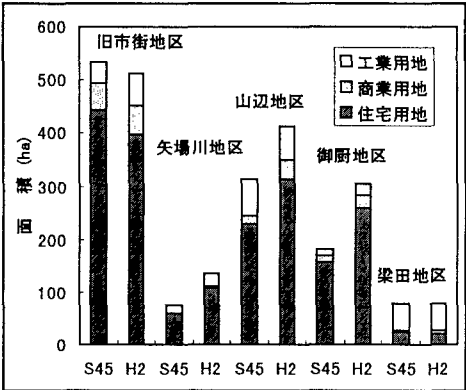
図－6に1店舗当たりの商品販売額及び売場面積を示す。昭和60年までは、1店舗当たりの商品販売額（平均商品販売額）は旧市街地区が河南地区の2倍程度であったが、昭和60年以降は逆に河南地区の商品販売額が旧市街地区を上回ってきている。また、1店舗当たりの売場面積で見ると、旧市街地区はほとんど変化が見られないのに対して、河南地区の売場面積は順調な伸びを示している。また、昭和60年の平均売場面積を基準として、平成6年の総売場面積から商店数を推計すると、昭和60年の平均売場面積は67.2㎡で、平成6年の総売場面積は67,309㎡であるので1002店となり、実際の店舗数624店とは378店の開きが生じている。このことから、河南地区に大規模小売店舗が多く出店していることがわかる。

4. まとめ

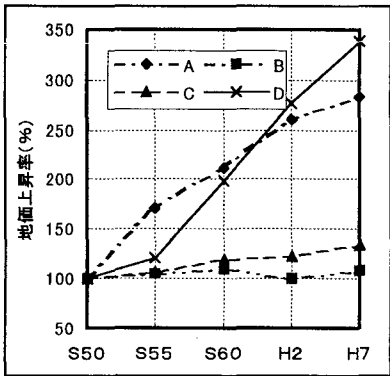
国道50号（足利バイパス）を中心とした道路網の整備により、県道桐生岩舟線（旧国道50号線）を軸とした商業中心地区が交通の利便性、特に広い駐車場を持つバイパス近郊の郊外に移動し、大規模小売店舗を中心とした新たな市街地を形成しながら土地利用形態を変化させている。



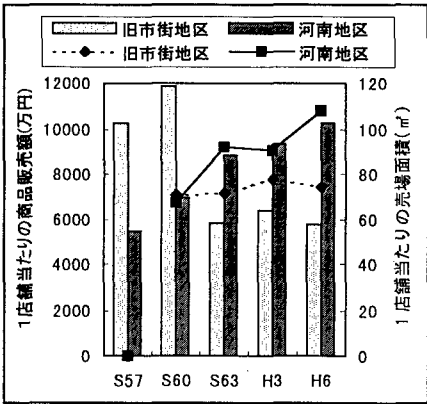
図－5 大規模小売店舗出店状況



図－3 土地利用状況



図－4 地価表示価格の変動



図－6 商品販売額と売場面積